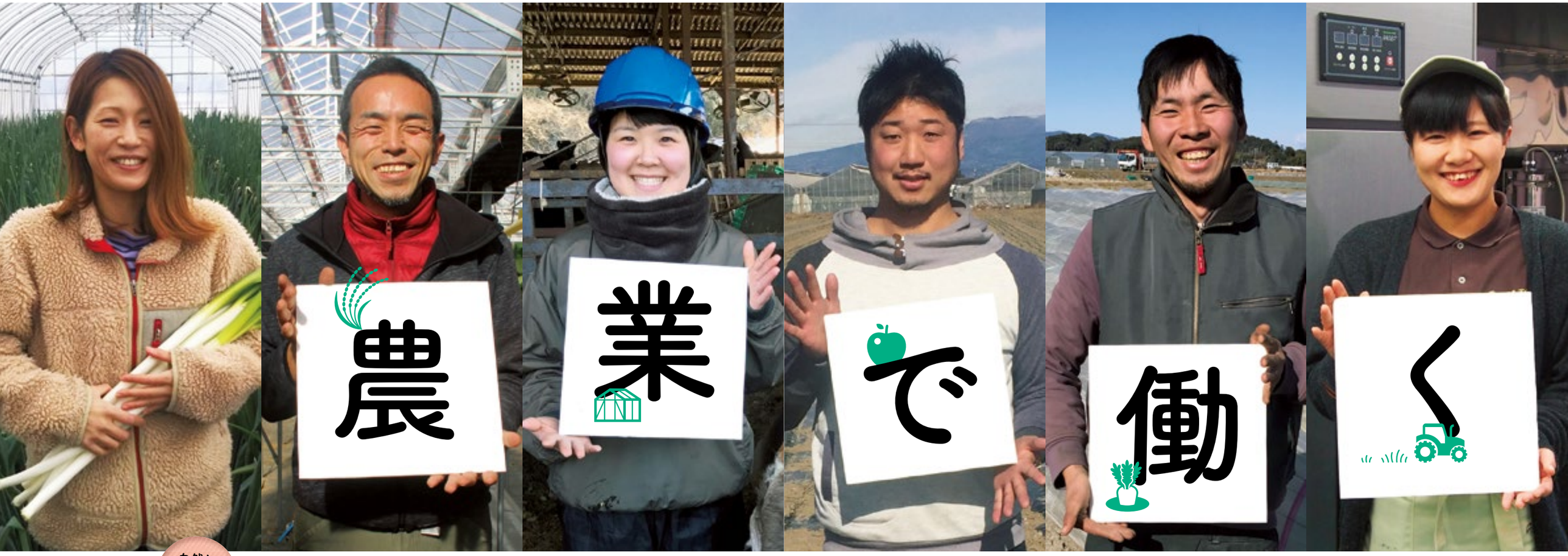


今、就職先として農業を選ぶ人が増えています。その経歴は、新卒や他分野からの転職などさまざまです。

取材・文／下境敏弘、千葉貴子、Office彩蔵　イラスト／ちこ*

他の職業にはない魅力を持つ農業

卒業シーズンを迎え、これから新たな道に歩み出そうとする人も多いことでしょう。自分の価値観を大切にしながら、どういった働き方をするか。そこには、さまざまな選択肢があります。

四季を感じながら、自然とともに生きられる仕事の一つが農業です。人間が生きていくうえでなくてはならない食物をつくり、また、地域社会に貢献できるという生きがい、やりがいもあります。創意工夫を活かせる創造的な仕事でもあります。

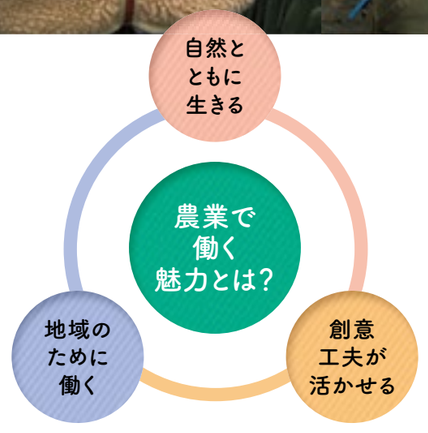
多様な魅力のある農業を始めてみたいという人は少なくありません。49歳以下で新たに農業を仕事にする人は、年間で2万人以上います。中でも目立って増えているのが、農業を事業とする法人に新たに就職する「新規雇用就農者」です。家族経営の法人化に加えて、他の産業からの参入もあって、農業法人そのものも急増しているのです。

サラリーマン的農業のススメ

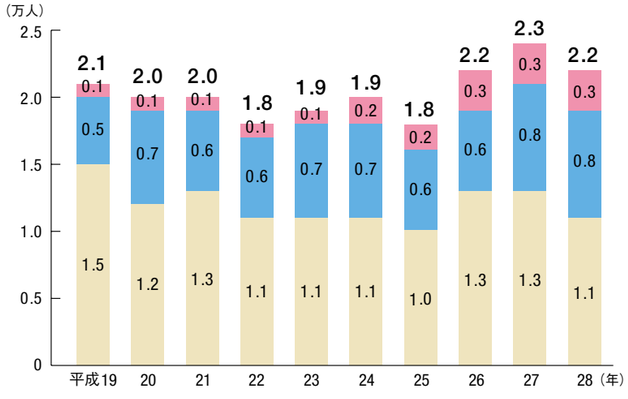
初めから自営農家を目指すのではなく、農業法人に就職するという方法には多くの利点があります。家業が農業でなくても大丈夫です。自分で農地を確保しておく必要がなく、農業機械などの初期投資もいりません。雇用されるということは一般の会社に勤めるのと同じで、福利厚生の充実した農業法人もたくさんあります。独立を目指す人なら経験を積みながら知識やノウハウを蓄えられるほか、そのまま長く勤めるという選択肢もあります。

農業には農作業だけでなく、企画、営業、経理・財務、労務管理などの仕事もあり、専門性を持つ人なら、それを活かすという働き方もできます。また、商品開発やレストランの経営、海外市場への展開を図ったりと、積極的な経営を行う法人もあります。

こうした法人を舞台に自分の新たな可能性を追求する人々を紹介します。



■ 49歳以下の新規就農者数の推移

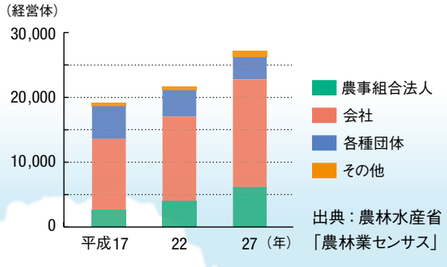


出典：農林水産省「新規就農者調査」

新規参入者：新たに開始した農業経営の責任者および共同経営者。
新規雇用就農者：新たに法人等に雇用され、農業に従事することとなった人。
新規自営農業就農者：農家世帯員で、自営農業への従事が主になった人。

※新規参入者については、平成26年調査から従来の「経営の責任者」に、「共同経営者」を加えている。

■ 農業法人数の推移



出典：農林水産省「農林業センサス」